

—民具体系と生活構造の比較から—

可能性 民具研究の アジア

第22回常民文化研究講座・国際研究フォーラム

2018年

12/8(土) 10:00~17:00

神奈川大学横浜キャンパス 3号館 305 講堂

12/9(日) 10:00~15:00

神奈川大学横浜キャンパス 3号館 205 講堂

第1日目

対談 10:00~12:00

「民具とは—道具の人間化・人間の道具化—」

川田 順造 (日本常民文化研究所客員研究員)

佐野 賢治 (日本常民文化研究所所員)

報告Ⅰ 13:00~15:00 生産業と民俗技術

「アイヌおよび隣接する北方先住民にみる民具体系の諸相」

大塚 和義 (日本常民文化研究所客員研究員 国立民族学博物館名誉教授)

「国境地帯のハニ/アカの農耕用具の研究」

楊 六金 (中国・紅河学院教授)

モデレータ・コメント: 川野 和昭 (南方民俗文化研究所主宰 国際常民文化研究機構共同研究者)

報告Ⅱ 15:15~17:00 民具誌から見る地域社会の生活構造

「民具から見る中国江南一農村の生活誌」

張 正軍 (中国・華東理工大学 教授)

「韓日磯漁漁具の比較研究—広域体系から見たその変動と民俗文化論」

吳 昌炫 (韓国・国立民俗博物館学芸研究士)

モデレータ・コメント: 佐々木 長生 (福島県民俗学会会長 国際常民文化研究機構共同研究者)

第2日目

報告Ⅲ 10:00~12:00 民具の機能・形態・象徴

「中国における女神神話と少数民族を偶像化した語り—「網袋」と「縄」の象徴を焦点に—」

金 善子 (韓国・延世大学中国研究院専門研究員)

「新規性と保守性という観点から台湾原住民族の道具と行動との関係を考える」

野林 厚志 (国立民族学博物館教授)

モデレータ・コメント: 眞島 俊一 (テム研究所長・国際常民文化研究機構共同研究者)

総合討論 13:00~15:00

司会: 神野 善治 (武蔵野美術大学教授・国際常民文化研究機構共同研究者)

山田 昌久 (首都大学東京教授・国際常民文化研究機構共同研究者)

※日本語の通訳があります。

※内容につきましては、変更する場合がございます。

主催: 神奈川大学日本常民文化研究所・国際常民文化研究機構

後援: (公財) 渋沢栄一記念財団 渋沢史料館・日本民具学会・道具学会・日本生活学会

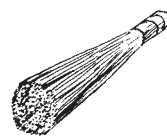
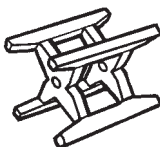
日本生活文化史学会・一般社団法人 アジア民族文化学会・比較民俗研究会

要申込

アジア民具研究の可能性

—民具体系と生活構造の比較から—

本研究所ではいつの時代、いつの地域においても大多数を占める普通の人々、“常民”の暮らしを明らかにするための一級資料としての民具、その分析視角や方法を検討してきた。そのため過去3回、シンポジウム「モノ」語り—民具・物質文化からみる人類文化—(2010)、「渋沢敬三の民具研究」(2013)、「渋沢敬三の資料学—日常史の構築—」(2014)を開催し、その中で、地域における生活構造、民具体系としての認識、身体との関係性など、その背景の理解の必要性が痛感された。今回は、民具の形態と機能さらに象徴に関わる問題系に焦点を当て、東アジア地域(日・中・韓・台湾・東南アジア・極東ロシア)を事例にして民具研究の可能性・有効性を議論する機会とする。(佐野賢治)



プロフィール

- **川田 順造** (日本常民文化研究所客員研究員) 1934年東京市生まれ 人類学 『日本を問直す』(青土社 2010年) 『人類学的認識論のために』(岩波書店 2004年) 『聲』(筑摩書房 1988年)
 - **大塚 和義** (日本常民文化研究所客員研究員 国立民族学博物館名誉教授) 1941年東京都生まれ アイヌ文化論 『北太平洋の先住民交易と工芸』(編著 思文閣出版 2003年) 『アイヌ海浜と水辺の民』(新宿書房 1995年) 『アイヌモシリー—民族文様から見たアイヌの世界』(編著 国立民族学博物館 1993年)
 - **楊六金** (中国・紅河学院教授) 1956年中国雲南省生まれ 文化人類学 『中南半島ハニ族の文化研究』(雲南人民出版社 2018年) 『古代血縁の標識：国際ハニ / アカの父子連名系譜』(共著) (雲南人民出版社 2010年) 『よく知られぬ族群—マン人の過去と現在』(雲南教育出版社 2004年)
 - **川野 和昭** (南方民俗文化研究所主宰 国際常民文化研究機構共同研究者) 1949年鹿児島県生まれ 民俗学 『琉球寫真景』考 『日本近世生活給引』奄美・沖縄編(非文字資料研究センター 2014年) 『衣裳を通した災患防除の思想の比較』『国立歴史民俗博物館研究報告』174(国立歴史民俗博物館 2012年) 『南九州とラオス北部の竹の焼畑』『焼畑の環境学』(思文閣出版 2011年)
 - **張正軍** (中国・華東理工大学教授) 1964年中国浙江省生まれ 文化人類学 『歌を掛け合う人々—東アジアの歌文化』(共著 三弥井書店 2017年) 『対歌文化論』(共著 科学出版社 2016年) 『文化尋根』(上海交通大学出版社 2009年)
 - **呉昌炫** (韓国・国立民俗博物館学芸研究士) 1978年韓国ソウル生まれ 文化人類学(民俗学) 『日本帝国の統治の合理性として学問知識の進化：京城帝国大学図書館蔵書(産業及び水産業編)の時系列分析』(東方學誌 2017年) 『20世紀前半における日本の鮫鱈網の伝播と朝鮮漁民の受容』『国立歴史民俗博物館研究報告』199(国立民族学博物館 2015年) 『魚、漁業技術、民族慣習：植民地期における漁業経済構造に対する経済人類学的研究』(韓国文化人類学 2015年)
 - **佐々木 長生** (福島県民俗学会会長 国際常民文化研究機構共同研究者) 1949年福島県生まれ 民俗学・民具学 『農具が語る稲と暮らし』(歴史春秋出版 2001年) 『民具の保有状況から見た生活誌』『歴史と民俗』6(平凡社 1990年) 『会津地方における近世農具』『紀年銘民具・農具調査等』日本常民文化研究所調査報告書 8(日本民俗学会研究奨励賞受賞 1981年)
 - **金善子** (韓国・延世大学校中国研究院研究員) 1957年韓国仁川生まれ 神話学 『南方絲綢之路の神話旅行』(Asia 2017年) 『古い智慧』(Acros 2012年) 『金善子の中国神話故事』(Woongjin Think Big Co 2011年)
 - **野村 厚志** (国立民族学博物館教授) 1967年大阪府生まれ 人類学・民族考古学・台湾研究 『台湾原住民研究の射程』(編著 順益台湾原住民博物館 2014年) 『文化資源としての博物館資料—日本統治時代に収集された台湾原住民族の資料が有する現地社会での意義』『国立民族学博物館研究報告』34-4(国立民族学博物館 2010年) 『イノシシ狩猟の民族考古学 台湾原住民の生業文化』(御茶の水書房 2008年)
 - **眞島 俊一** (株式会社 TEM 研究所所長 国際常民文化研究機構共同研究者) 1947年栃木県生まれ 生活学・民具学・建築学・道具学 『棚田の謎 千枚田はどうしてできたのか』(共著 農山漁村文化協会 2003年) 『台所の百年』(編共著 ドメス出版 1999年) 『生活学事典』(共著編 TBSブリタニカ 1999年)
 - **神野 善治** (武蔵野美術大学教授) 1949年東京都生まれ 博物館学・民俗造形の形態学・民俗時間論の研究 『木霊論 家・船・橋の民俗』(白水社 2000年) 『人形道祖神 境界神の原像』(柳田賞受賞 白水社 1996年) 『釜漁の研究』『沼津市歴史民俗資料館紀要』6・7(日本民俗学会研究奨励賞受賞 1983年)
 - **山田 昌久** (首都大学東京大学院教授 国際常民文化研究機構共同研究者) 1953年神奈川県生まれ 出土木器研究 定住人類の生活技術史 実験考古学 『日本原始古代の木工技術』『モノと技術の古代史』(吉川弘文館 2018年) 『木の考古学—出土木製品用材データベース』(海青社 2012年) 『考古資料大観 8—木・繊維製品』(小学館 2003年)
- コーディネーター 佐野 賢治 (日本常民文化研究所所員・民俗学)



お申し込み

「講座・国際フォーラム 参加希望」を明記の上、①氏名 ②郵便番号 ③住所 ④電話番号を記載し、メール、FAXまたは葉書にて、**12月3日(月)まで**にお申し込み下さい。
当日参加も歓迎いたしますが、定員(150名)に達し次第締め切らせていただきます。

●宛 先 / メール: jomin-kouza22@kanagawa-u.ac.jp
FAX: 045-413-4151
〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
神奈川大学日本常民文化研究所

お問い合わせ

神奈川大学日本常民文化研究所・国際常民文化研究機構
TEL: 045-481-5661(代)

※お申し込みの際にいただいた個人情報には講座の実施・運営にのみ使用いたします。



- 交通アクセス
- ①東急東横線「白楽駅」または「東白楽」下車 徒歩13分
 - ②横浜駅西口バスターミナルから横浜市営バスを利用
 - 1 番乗場 36系統 菅田町/緑車庫行「神奈川大学入口」下車
 - 1 番乗場 82系統 八反橋/神大寺入口行「神奈川大学入口」下車
- ※駐車場がありませんので、自家用車の利用はご遠慮ください。